

報道各位

「Offshore Technology Conference 2022展示会」に出展

一般社団法人 日本船用工業会

当会は、日本財団助成事業として、5月2日から5月5日まで米国ヒューストン市で開催された「Offshore Technology Conference(OTC) 2022」に出展した。OTCはオフショアに関するイベントとしては世界最大規模のものであり、当会の出展は昨年に引き続き、2013年以来、今年で9度目となった。

今回は、我が国石油開発関連企業及び当会会員企業等として、(株)INPEX、JX石油開発(株)、日本製鉄(株)、(一財)日本海事協会、潮冷熱(株)、シンコー(株)、大同特殊鋼(株)、ダイハツディーゼル(株)、富士貿易(株)の計9社・機関にてジャパンパビリオンを形成し、日本製オフショア関連製品のPRを行うとともに、来場した世界各国の海洋石油ガス関係者らと情報交換を行った。また、本パビリオンでは、昨年と同様に、一貫したブランドイメージでPRを行うために策定した「日本パビリオンの基本デザイン」を採用した。なお、今次展示会は、「メインホール」会場内中央通路沿いの好立地かつ過去最大の面積(1,600ft)で出展し、多くの来場者がジャパンパビリオンを訪れ、「コロナ前の状況に戻りつつある。」、「今年は部品や材料に係る供給依頼が多い。」、「新規の協業に係る話があった。」等、出展者からは前向きな声が相次いだ。

主催者からは、今回の来場者数約24,000人、出展者数39カ国1,064社との発表があった。コロナ前の2019年の水準には及ばないものの、主催者関係者からは、「昨年から引き続き「メインホール」のみでの規模を縮小した形での開催を踏まえると、一定の成果があった。」との発言があった。(参考:OTC 2019来場者数59,200人、出展者数2,300社100か国。OTC 2020は開催中止。OTC 2021では主催者判断により来場者数及び出展者数は非公表)

会場内の様子としては、昨年出展辞退となったSchlumberger、Baker Hughes、ABSといった地場の大手オフショア関連企業その他、ROLLS ROYCE、Saudi Aramco、KONGSBERG等の海外企業も大型のブースを構え出展していた。また、国別パビリオンとしては、イギリス、フランス、イタリア、オランダ、ノルウェー、ガーナ、ブラジル、ガイアナ、カナダ、韓国が出展しており、アフターコロナを見据え、各国のプロモーションは活発になっていた。

また、会場内で行われていたテクニカルセッションでは、「エネルギー移行」、「カーボンフットプリント」等の脱炭素関連がメインのテーマとなっており、セッションによっては立ち見が出るほどの盛況であった。各登壇者からは今後の石油ガス生産の必要性に言及しつつ、「ネットゼロ」をビジネス機会と捉え、水素・アンモニア等の新燃料への移行、炭素捕捉貯蔵利用(CCUS)技術の開発、風力・波力等の再生可能エネルギーへの積極的な投資が引き続き求められる旨の発言があった。また、アメリカ国内で進行中の水素生成やCCUSに係るプロジェクトについても触れる場面もあった。

一方、展示会場では脱炭素に関わる展示品はほとんど見られず、石油ガス関連のオフショア製品の展示が中心であった。来年以降のオフショア市場やOTCの開催形態がどのように変化するかは注目に値する。

【展示会概要】

名 称：Offshore Technology Conference 2022
開催期間：2022年5月2日（月）～ 5月5日（木）
場 所：NRG Park

【日本パビリオン概要】

展示場所：（メインホール）ブース No.643

（オフショア関連企業等）4社

（株）INPEX、JX 石油開発（株）、日本製鉄（株）、（一財）日本海事協会

（参加会員企業等）5社

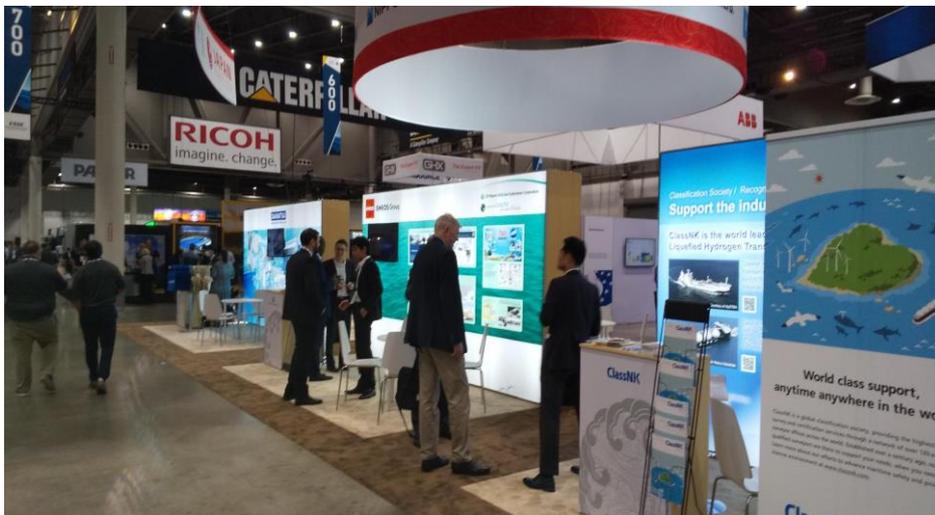
潮冷熱（株）、シンコー（株）、大同特殊鋼（株）、ダイハツディーゼル（株）、富士貿易（株）

以 上

【参考写真】



ジャパンパビリオン①



ジャパンパビリオン②



ジャパンパビリオン③



ジャパンパビリオン④



展示会場の外観と日本パビリオンの案内広告

———本件に関する問い合わせ先———
一般社団法人 日本船用工業会： 業務部 山崎
Email : yamasaki@jsmea.or.jp
TEL : 03-3502-2041
